

グローバル・オペレーショナル・レジリエンス プログラム

ゴールドマン・サックスのオペレーショナル・レジリエンス、業務継続および災害復旧に関するステートメント

ゴールドマン・サックス・グループ（以下、当グループ）のオペレーショナル・レジリエンスフレームワークは、お客様、市場、または当グループに影響を与える重大な業務上の障害に対して、未然防止・対応・復旧・適応するためのものです。

オペレーショナル・レジリエンスは、当グループにおける重要な優先事項であり、お客様に対するサービスを継続して提供し、お客様の資産と、当グループの従業員および資産を、継続的に保護できる態勢を適切に確保することを目的としています。当グループのオペレーショナル・レジリエンスの状況は、取締役会およびシニア・マネジメントに定期的に報告され、グループ全体のオペレーショナル・レジリエンスプログラムに対する監督、検証および継続的な強化が可能となるようにしています。

オペレーショナル・レジリエンスフレームワークを実践するうえでの基礎となるのは、当グループの業務継続、災害復旧および危機管理態勢です。またこれらのベースにあるのは、テクノロジー障害復旧、サイバー・レジリエンス、サードパーティ・ベンダー・レジリエンス、施設のレジリエンスや従業員のウェルネスを含む、アセットベース・レジリエンス態勢となります。本プログラムは、業務環境、規制上の期待および新たに顕在化するリスクの変化に応じて、継続的に更新しています。

1. レジリエンス・プランニング

当グループは、重要なビジネスサービス（または同等のもの）の特定、業務継続計画の文書化、およびアセットベース・レジリエンス態勢を通じて、規定されたガバナンスならびに継続的なレビューおよびモニタリングのもと、レジリエンス計画を実施しています。

- **重要なビジネスサービス (IBS)**（または、現地で規制で求められる同等のもの）は、当グループが提供するサービスの中で、中断した場合に顧客、市場、または当グループに容認できない損害をもたらす可能性のある重要なサービスとして特定されます。インパクト・トランス（重大な影響が発生する前の、IBS への最大許容中断レベル）および IBS の提供に不可欠な資源（ディペンデント・アセット）を特定し、これにより当グループは業務継続に必要なレジリエンス・コントロールを確立することができます。当グループの IBS へのアプローチは、グループ全体の業務継続計画を活用しています。
- **業務継続計画 (BCP)** は、当グループの準備体制およびコンティンジェンシー・プランニングを管理する、グローバルかつ体系化された取組みです。BCP は当グループの各ビジネス・ユニットで策定され、各業務の重要性や目標復旧時間 (RTO - インシデント発生後に業務プロセスが利用できない最大許容時間) などの詳細が含まれています。ディペンデント・アセット、業務要件、シナリオに依存しない復旧戦略（業務上の代替策を含む）も、必要に応じて文書化されています。これらの計画は定期的に見直し、更新しています。
- **アセットベース・レジリエンス** は、当グループにおける主要なディペンデント・アセットのレジリエンス能力を確保するものです。これには以下が含まれます。

 - **テクノロジー障害復旧**: 障害発生後に重要な業務システムの継続を確保するため、ネットワーク、アプリケーション、マーケットデータおよびその他の共有テクノロジーを含む、当グループの中核的なテクノロジー・インフラストラクチャーの復旧を確保するための計画およびテストに重点を置いています。障害復旧計画は、定められた復旧目標内でシステムを復旧するために必要な手順を文書化しています。

- **サイバー・レジリエンス**: 当グループは、外部からの脅威および内部の悪意ある活動の両方に対する防御として、情報セキュリティ、特にサイバーセキュリティを重視しています。当グループの情報セキュリティおよびサイバーセキュリティプログラムは、情報およびテクノロジー環境の機密性、完全性、可用性を維持します。このプログラムのフレームワークと取り組みは、[クライアント・セキュリティ・ステートメント](#)に要約されています。
- **サードパーティ・ベンダー・レジリエンス**: ベンダー・レジリエンスプログラムは、重要なサードパーティ・ベンダーが業務障害発生時に復旧する能力の適切性と有効性を評価するものです。当グループの重要なベンダーについては、サードパーティ・サービスを喪失した場合の代替ソリューションを定めた、業務上の代替手段ならびに出口・代替戦略も文書化しています。代替ソリューションがすぐに用意できない場合、リスクエクスポージャーを把握するためにさらなる分析を行い、リスク低減のためのコントロールやその他のレジリエンス強化など、適切な是正措置を実施します。
- **施設のレジリエンス**: 当グループは、各拠点における業務やテクノロジーの重要性に沿って、施設のレジリエンス要件について、リスクベースの評価を実施しています。業務継続を支援するために、バックアップ電源システム、通信の多様化およびその他の支援措置を含むレジリエンス機能を、必要に応じて導入しています。
- **ピープル・ウェルネス**: 当グループは、幅広いレジリエンスおよびウェルビーイング・リソースを通じて、従業員を支援しています。例えば、世界保健機関と疾病管理センターの潜在的なパンデミックに関する情報を積極的にモニタリングしており、必要に応じて実施する手順を文書化しています。

2. 危機管理

当グループの危機管理プログラムは、業務障害時の対応と復旧において、会社全体で連携したアプローチを採用しています。障害に対して効率的・効果的に対応するため、当グループは、明確なエスカレーション、連携したコミュニケーションおよび定義された対応体制を含む、多岐にわたり迅速に対応する態勢を確立・維持しています。

- 当グループの世界各地域に設置された危機管理センター(CMCs)。CMCsは危機の状況を把握し、既定の危機管理手順を実行し、緊急対策を指揮します
- 業務障害発生時にその状況分析、報告、意思決定を支援するように指名・訓練された危機対応チーム
- 現地の規制当局との情報共有や対応を円滑に行い、また当グループにおける業務障害により影響を受けうる、外部のステークホルダーや当グループの従業員へのコミュニケーション
- 業務障害発生時およびその全期間を通じて、主要なステークホルダーと初動対応者に迅速に通知するために、定期的にテストされたプロセスとコミュニケーションツール
- 重要なサードパーティでの業務障害時における、当グループへの連絡手順等を含む適切な取り決め

3. オペレーショナル・レジリエンスおよび危機対応訓練

当グループは、グループ全体のオペレーショナル・レジリエンスプログラム(業務継続を含む)の実施と管理に関わる従業員にトレーニングを提供しています。さらに、危機対応に関わる従業員に対しては、業務障害時における各自の責任を認識させるためのトレーニングが提供されています。ゴールドマン・サックスの従業員や施設に影響を及ぼす可能性のある事象を報告するためのリソースも用意されています。

4. レジリエンス・テストおよび危機管理テスト

当グループは、危機対応、復旧、および通常業務の継続能力を評価するために、設定された頻度で数種類のテストを実施しています。これにはシナリオベースのテストが含まれ、シミュレーションおよび実際の事象から得られた教訓を通じて継続的な改善を支援しています。

- **BCPリカバリー・ストラテジー・テスト**: (人、施設、システム、外部業務委託先などの)アセットを1つ以上喪失した場合、業務やプロセスの引き継ぎ、リモートワーク、代替施設、およびアセットの代替策な

どの代替的な手段で業務を遂行します。これらの代替ソリューションは、当グループの規定に従って、毎年テストを実施しています。

- **統合テスト:** 極端だが起こり得る業務上の重大な障害シナリオに基づいて、当グループの重要なビジネスサービス (IBS または同等のもの) の復旧能力を検証し、さらなる高度化の機会を特定するために、統合テストと呼ばれる一連の対応・復旧のシミュレーションテストを少なくとも年に一度実施しています。
- **テクノロジー障害復旧テスト:** 業務障害後の復旧能力を実証するために、その重要度に応じて、さまざまな頻度でアプリケーションの障害復旧テストを実施します。
- **サードパーティ・ベンダー・レジリエンス・テスト:** サードパーティ・ベンダーのレジリエンスは、当グループのサードパーティ・オペレーショナル・レジリエンス・アシュアランス (TORA) およびベンダー業務継続計画 (VBCP) プログラムを通じて評価されます。これらのプログラムの一環として、当グループは重要なサードパーティ・ベンダーの評価を実施し、業務継続計画の適切性と有効性、およびビジネスにおいて求められる期間内に復旧する能力を評価します。
- **危機対応テスト:** 当グループは、危機対応時に期待される行動を強化し、プログラムやプロセスを継続的に改善する機会とすべく、机上演習や実地訓練を通して、定期的に危機管理対応策のテストを行っています。また当グループのフレームワークは、演習や訓練の企画・実施において、自然災害、地政学的事象、およびその他の環境や健康への危害など、特定の場所や地域のリスク特性を加味しています。これらは、関連する社内外のステークホルダー間の連携、エスカレーションおよびコミュニケーションの強化にも寄与します。

当グループはさらに、モニタリングおよびテスト、メトリクスならびにデータ品質指標、内部監査レビュー等を含む社内プログラムを通じて、文書化の適切性および復旧能力の有効性について、複数のレベルで検証を実施しています。

上記の通り、当グループは前年度において、ポリシー要件に従いこれらのレジリエンス・テストを完了しております。また、テスト要件の遵守状況を把握し、必要に応じて関連する委員会等に報告しております。テストの結果として生じる対応策は、適切に把握・管理しています。

お客様へ: 連絡とご質問

本書面は、当グループのオペレーショナル・レジリエンスプログラムの概要を提供するものです。さらにご質問がございましたら、当グループの各担当者にご連絡をいただきますようお願い申し上げます。なお、当グループのセキュリティ上支障の出かねないご質問にはお答えしかねることがございます。

本書面に関連する最新情報については、こちらのウェブサイト (<http://www.goldmansachs.com/japan/business-continuity-plan>) にてご覧いただけます。

最終更新: 2026 年 7 月 1 日

本文は英語の原文を翻訳したものです。本文と原文に相違がある場合には、英語の原文 (<https://www.goldmansachs.com/disclosures/business-resilience.pdf>) が優先します。